暮らしよい静岡を支える人を知る

しずおか自治会マガジン

保存版
自治会・町内会で
保存してご活用下さい

これからの自治会の

担い手問題

静岡市では自治会長の約9割の方が課題だと感じている「担い手確保」について特集します。

令和2年度に実施した「全自治会・全連合自治会アンケート結果報告」は静岡市のホームページで公開中です。QRコードからご覧下さい。

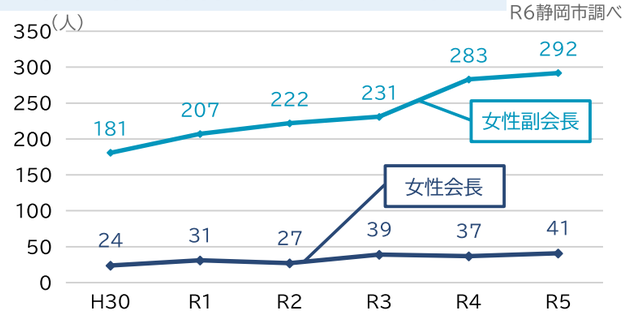
01 自治会長の現状

自治会の会長には、性別や年代、職業に大きな偏りがあります

令和6年度、女性の自治会長は微増していますが、割合は4.3%と非常に少なく、女性の連合自治会長は過去にもいません。令和2年度の調査では、自治会長の年代は、60代と70代が83%を占め、職業も無職が最も多い結果でした。自治会の担い手不足解消には、性別や年齢、仕事を選ぶことなく、多様な人が担える環境整備が欠かせません。

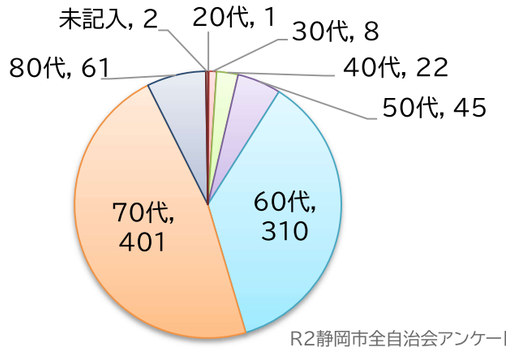
女性の単位自治会長・副会長の推移

R6静岡市調べ



単位自治会長の年代

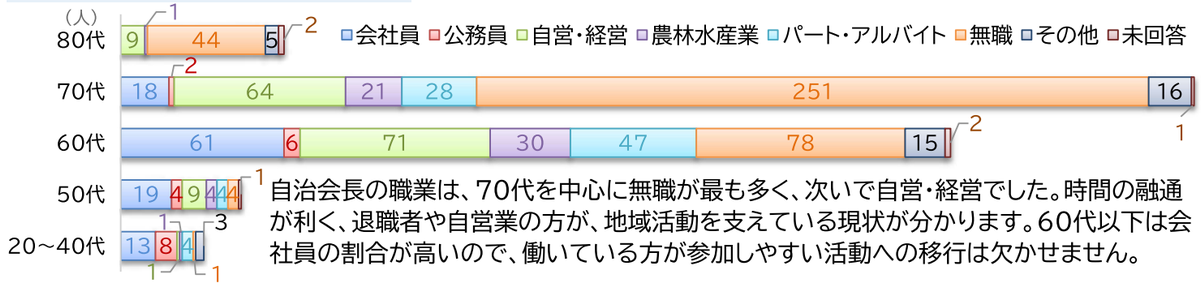
(人)



R2静岡市全自治会アンケート

単位自治会長の年代と職業

R2静岡市全自治会アンケート



自治会長の職業は、70代を中心に無職が最も多く、次いで自営・経営でした。時間の融通が利く、退職者や自営業の方が、地域活動を支えている現状が分かります。60代以下は会社員の割合が高いので、働いている方が参加しやすい活動への移行は欠かせません。

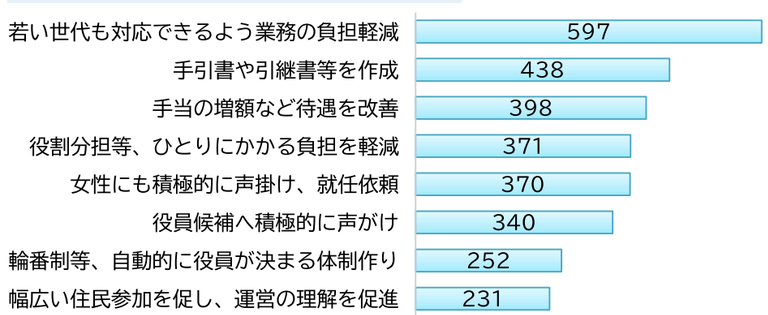
まずは 02 運営の見直しから

自治会の運営改善は欠かせません

担い手の確保には、業務の負担軽減や環境改善を行わなくてはならないと感じている会長が多いことが分かります。活動が大変なまま、次の世代へ渡すのではなく、少しでも活動しやすくしてから引き継ぐ必要があります。

担い手確保のためにしたいこと

R2静岡市全自治会アンケート



03 多様な参画のためのヒント

対象者の関心が高いテーマから

自治会の3大課題、「担い手不足」、「活動の負担」、「住民の不参加」は、相関関係にあり、今はこの3つが少しずつ悪化し、活動が大変になっています。

自治会の3大課題の相互関係

担い手不足 → 住民の不参加 → 活動の負担 → 担い手不足

3つの課題のどれかを解消するのではなく、全てを少しずつ改善していくことが必要です。そのためには、適した人が必要とされることに対し、効率よく活動できる体制づくりが重要です。

これからの自治会活動のヒント

1. **適した人が**
   （適した人数・多様な人材が）
2. **必要とされることに対し**
   （必要性・目的・根拠が明確なこと）
3. **効率よく活動できる**
   （ムダなく・合理的に・適した活動）

若い世代にお願いをするのなら・・・
子ども、防災、イベントから

女性にお願いをするのなら・・・
子ども、防災、高齢者福祉から

Check!

令和4年度に里山くらしLABOが実施した磐田市のA・B地区の中学生以上全住民アンケートの結果より

【若い世代の参画のためのポイント】

仕事をしていても関われる仕組み作りが大切。

- 平日にサポートできる要員を作る
  書類の提出や講演、招集行事は平日の昼間が多いので、若い世代が休まなくて済むように代行する
- 前任者が相談役として残ってサポートする
- デジタル化をはじめとする新しい分野をお願いする
- 任せる

【女性の参画のためのポイント】

子育てや介護など、家庭の事情が関係することが多いので、型にはめようとせず、任せる。

- 複数の女性で担える体制を作る
- 従来のやり方にはめようとしない
- 人を増やすなど休みながら担える体制を作る
- 無理はしない、させない

広野町内会前会長に聞いた

人間関係の積み重ねが自治会に人を巻き込む

町内会長を7年務め、令和6年春に交代した広野地区の杉山貴勇前会長に、役員の交代について聞きました。
広野町内会は、約1,430世帯の、市内最大級の単位自治会です。町内会長は2年1期で、2期務めることが多いようです。
貴勇前会長は、任期が2期4年を経過した時に、まだやれることがあると考え、続投を決意しました。3期6年で交代を考えたのですが、いざ交代しようとすると、後任の方が体調を崩すなど、思うように運びません。そこで1年かけて、町内会長交代のための準備を行ったそうです。
貴勇前会長は人には得手不得手や向き不向きがあるので、会長の選出には時間をかけて検討し、説明を重ね、理解してもらうことを大事にしているそうです。さらに、次期会長のその次の会長選出のためにも、役員を育てる準備を並行して行った方がいいと言います。
後任の杉山浩久会長は、消防団員として長年活躍し、表彰までされた方で、貴勇前会長の時代に、副会長を2年経験しています。貴勇前会長とは旧知の仲で様々な事情を説明し、引き受けてくれることになりました。

副会長の選出がポイント

町内会長を決めるポイントは、副会長の選出だと、貴勇前会長は考えています。副会長には、必ず会長ができる方に入ってもらっていました。人によっては、副会長はできても、会長はやれない、やらないという方もいます。会長の選出は相手があることなので、準備や配慮を大事にしていて、短い期間で選出することは難しく、会長職の任期が短いことは、次期会長の選出をより困難にする要因だと思うと言います。

（左から杉山浩久会長、杉山貴勇前会長、杉山美奈子副会長、板倉直文庶務）

役をお願いするにはタイミングが重要で、貴勇前会長の話からは、この方は家族の介護でしばらくはお願いできない、逆にこの方は市内のイベントで実行委員をしているのでお願いしたらやってくれそう、この方は消防団の役が終わるからお願いする時だと思う、といった個人の事情を踏まえた話がよく聞かれます。自治会の都合ではなく、個人の家庭の事情やタイミングを知った上で、無理なくできそうな方へお願いすることが必要なようです。

アンテナを高くしてあちこちへ

なぜそこまで各個人への配慮ができるのか。貴勇前会長は、簡単な話ではないけれどと前置きをし、アンテナを高くして色々なことを知る必要があると言います。貴勇前会長は、今も長田南地区社協の会長を務めています。それ以外にも、地区内のボランティアグループや高齢者サロン、放課後子ども教室、子育てサロンなど、広野町内会の様々な活動へ籍を置き、頻繁に顔を出しています。結局は人間関係なので、人との付き合いの中で「あいつに頼まれたらやらなきゃ…」という信頼関係を作ることが大事だと言います。そして「仕方ないなぁ」というちょっとした「やらされ感」を活動への参加を通して、楽しかったり、意義があったりすることへと、変えていけたらベストだと話してくれました。
飲み会によるコミュニケーションで、言いたいことが言える関係を作ることもいいのですが、それ以上に、日頃から気にかけたり、頻繁に声をかけたり、困っていたら手を貸したりするなど、ちょっとした関係を積み重ねることが、何より有効だと言います。

女性・若い世代をサポート

今年、広野町内会の副会長を務める杉山美奈子さんは、中学生の子どもがいる、共働きの母親です。子ども会の会長を担っていた時に、子どもが高学年になると保護者の負担が増えるので脱会するという家庭が多く、運営に困っていました。その際に、町内会の力を借りれないものかと、貴勇前会長に相談したのが始まりでした。貴勇前会長から、町内会から子ども会へ支援するためにも、庶務に就いてくれればつながりやすくなると言われ、よく分からないままに町内の庶務を引き受けることになり、町内会との関わりが始まりました。
美奈子さんは、以前、組長が回ってきた時に、一体何をしたらいいのか分からず、夫婦で大変困ったそうです。その経験から「マニュアルがあれば、組長の負担が軽減されるのではないか？」と考え、「広野町内会 組長お仕事マニュアル」を作成しました。非常によくできたマニュアルで、広野町内会はもちろんですが、市内の他の自治会も、このマニュアルを活動の参考にしているそうです。

【組長 お仕事マニュアル】

- 年間行事
- 組長の年間業務の一覧
- 業務の詳細
  活動の目的や業務のコツ、参加の参考になる活動のおよその所要時間など
- 困りごとへのQ＆A
  業務のコツや便利な各種ひな形などを掲載
- 問い合わせ先

庶務の板倉直文さんは、小学生の子どもの父親です。貴勇前会長に誘われ、役員として参加するようになりました。市内から広野に、家族とともに移り住んできたのですが、輪番制で組長を担当した時に、一生懸命取り組む様子を貴勇前会長に高く評価されます。その後、庶務を打診されて、引き受けることになりました。仕事柄、防災に明るいことを活かし、水害が多い広野のために「広野災害マニュアル」を作成します。平時と増水時を比較したり、増水時の水量を明記したりするなど、写真を多用し、地域の被害想定を明確にした内容は、非常に参考になります。

若い人が関われる体制が整ったことで、広野町内会ではLINE公式アカウントもスタートできました。美奈子さんや板倉さんを核に、広野特有の災害に特化した防災情報や、回覧板情報、時には、地域の夏祭りの花火の打ち上げ時間など、非常にローカルな、それでいて知っているとちょっと便利になったり、楽しくなったりする情報を発信しています。

若い人が力を発揮できる地域へ

貴勇前会長は、若い人がやりたいことができるような組織にならないとダメだと考えています。そのために、働いていても関われるような体制が必要だと言います。そして、「意見を言ってもしょうがない」と言われないように、若い人の意見をちゃんと聞き、できることはサポートしていく、自分のまちを自分達で守るという意識を持ってもらうようになることが、重要だと言います。

ここがPOINT

- 地域のことにはアンテナを高くする。ただし、余計なことは言わない
- いきなり会長を頼むのではなく、少しずつ巻込む
- 常日頃から声をかけるようにする
- 若手の気づきをサポートする
- 人間関係あってこそなので無理をさせない

テーブルを囲む役員会の様子。みんなで二番町の2のピース！

【二番町自治会の役員】

役名	人数（性別）
相談役	1（男1）
自治会長	1（女1）
副会長	4（男2・女2）
会計	1（女1）
会計監査	2（男2）
総務部長	1（男1）
防犯部長	1（男1）
防災部長	1（男1）
体育部長	1（男1・兼務）
青年部長	1（男1）
子ども部長	1（女1）
班長	6（女6）
組長	32

役員の半数が女性

葵区一番町地区の二番町自治会は、375世帯1,000人の、市内では一般的な規模の単位自治会です。令和6年度、二番町自治会で初の女性自治会長として、田中知子さんが就任しました。
田中会長は副会長を8年務めたのですが、それでも、自治会長は偉い方がなるものだと思い、最初はお断りしたそうです。しかし、2つの提案により、引き受けてみることにしました。1つ目は、会長を順番でまわせるような体制を整えること、2つ目は、副会長に希望する方を2名指名していいことです。結果、令和6年度は、田中会長の呼びかけで、20ある役員の半数が女性という体制でスタートを切りました。

気楽さを感じる関係

田中会長はフルタイムで働き、主任児童委員としても活躍するとても忙しい方です。それでも今、自治会長を務めることができるのは、周りの役員が多様な業務を分担し、引き受けてくれるからだと言います。会計や規約の変更といった書類の作成、デジタル技術の活用などは、各分野に長けた方が担当しています。さらに広報紙の仕分けのように業務として記載されることがない、細々とした雑務も「いいよ、やるよ」と快く引き受けてくれる方もいて、様々な人が少しずつできることを担当し、二番町自治会は運営されています。
この分業の利点なのか、役員の意識には、自治会の役職や業務に対する気軽さを感じることがあるそうです。行事のために仕事を休み、活動を負担に感じるのではなく、仕事や家庭を優先する役員がいる、でもそれはお互い様で、役員同士が互いのことを理解し、補うことで個人の負担感を小さくし、行事や事業をこなしていく、そういった関係性です。

業務の一極集中の解消と3人の自治会長の思い

この分業制は、前自治会長で現在は裏方として田中会長をサポートをしている折原芳昭相談役、そしてその前の会長である大橋章男さんの時代から行ってきた自治会の運営改善がもたらした結果なのだと、田中会長は言います。大橋さんは当時よく「役員の若返りをしないといけない」と言い、それを引き継いだ折原相談役が、「若返りには自治会長の負担の軽減が必要」と、自治会長への業務の一極集中を、2年かけて少しずつ解消させていきました。およそ5年に及ぶ自治会運営の見直しには、行事の見直しや組の世帯数の不均衡を調整する組の再編、子ども会を自治会の子ども部へ移行、青年部の設置などの組織の再編も含まれています。

小さな工夫や合理化の積み重ね

そして、現在の二番町自治会の運営にも、小さな負担軽減の工夫が、随所に見られます。

【二番町自治会の運営の工夫】
- 集金は年1回のみとし、臨時の集金は行わない（寄付など急な支出は役員会で自治会費から配分を決め支出）
- やたらと集まらない
- 運営等の変更における規約の改訂には、基本、臨時総会を開かずとも、次の総会で承認されれば問題がないようにする
- 役員の連絡はLINEのグループトークを活用
- 役員会の資料はデータ化し、事前にLINEで共有する
- 集会所にはWi-fiを完備
- 会議の際は次第だけをメモ用紙も兼ねて印刷し紙を削減
- 議題を会議前にLINEで共有しているため、会議は1時間以内に終わる（負担が少なく子育て世帯も役員を担える）
- 集会所にスマートキーを設置（予約時間に遠隔操作で役員が開錠できるので鍵の受け渡しの負担が軽減）
- 回覧を回すのは基本、月2回

住民との連絡にLINEのオープンチャットを活用

二番町自治会は、住民への情報周知に、LINEのオープンチャットを活用しています。現在は、107名が参加し、運営はLINEが得意な副会長が担っています。オープンチャットでは、毎月発行する会報を閲覧できたり、イベントのお知らせやイベントの手伝い募集、集会所の予約状況などを見たりすることができます。誰もが発言するような場ではなく、自治会からの情報を知ることができる場として、上手に活用しています。

※LINEのオープンチャットとは
アドレスが分かれば、LINEの友だちでなくてもトークや情報交換ができる無料の機能です。参加者は好きな名前で参加できます。匿名で参加できるので参加しやすいのですが、誰でも参加できるので、運営にコツが必要です。

風通しのよい自治会へ

田中会長が運営で気にかけていることに、自治会のハードルを下げることや、風通しをよくすることがあります。定例の会議では、誰でも発言しやすいように、机をロの字型に並べ、必ず全員が発言するように促します。「困りごとはありますか？」とたずねることもまめに行い、田中会長個人が「どうかな？」と思った提案も、否定をせず、役員で検討し、やってみることを大事にしています。
今年度は、災害に備えて町内で井戸を所有したいという意見があり、調整を進めています。ペットの保護活動に力を入れている方の発案をもとに、連合自治会へ働きかけ全世帯のペットの飼育状況を調べ、ペットの名簿作成も行っています。最近では、役員の同意を得て、昔から地域活動に参加している、自治会に興味がある大学生も、役員会へ参加し、自由な立場で発言をしてもらいました。その際に提案された、将棋や麻雀、ゲームを楽しむ「ボードゲーム大会」を早速実施してみるそうです。

仕事と、子育てや介護の両立が、ひと段落したような方に支えられている面も大きいそうです。

「困った感を出す」が大事

年代や性別を超えた様々な方が役員として、自治会運営に参加しているコツをたずねると、「困っている時や助けが必要な時に、困っていると伝えること」、「困っている感じをちゃんと出すこと」だ、と教えてくれました。
例えば、集合住宅のゴミの出し方で困った時には、役員のLINEのグループトークで状況を共有し、困っていると伝えます。すると、他の役員から不動産会社への働きかけを提案され、実行します。その後他の役員も手伝って、不動産会社や班長などへ働きかけ、できる人が改善へ向けて少しずつ動いているそうです。
会長だからといってひとりで背負うことは無理なので、課題をみんなと共有することで、気負うことなく、多くの方の力を借り、運営できているのだそう。一体何をしてほしいのかを、具体的に伝えることも有効だと言います。

若い世代にいきなり役を頼まない

若い世代の役員登用は、いきなり役をお願いするのではなく、祭りの時に、ゲームの手伝いや料理作りを一緒にやるなど、「やってみようかな」と思える、負担の小さなことをきっかけに、まずは参加してもらうことから始めているそうです。行事で沢山の時間を一緒に過ごしたり、打ち上げで互いをねぎらったりするなど、段階を踏み、時間をかけて関係性を育むことで理解が進み、役員を引き受けてくれるようになるのではないか、と言います。また、不特定多数ではなく、「あなたにお願いしたい」と理由を明確に伝えることも大事だと言います。さらに、誰か一人が声をかけるのではなく、みんなが少しずつ声をかけているのが、とてもいいのだとも、教えてくれました。
実は、地域にはおもしろい人がいっぱいいて、自治会に関わることで少しずつ分かるようになり、さらにはその様々な住民の協力が、とても大きな力を生むのが楽しいのだ、と田中会長は言います。頼むのが上手な人や交友関係がとても広い人もいるので、そういった住民にもよく助けられているそうです。
夢のある話ばかりではないのであきらめがよぎることもあるようですが、色々とアイデアを出してくれる若者もいるので、実現できるようになりたい、二番町自治会が自宅でも職場でもない、利害関係のない場所、サードプレイスになるといいなと、思いを語ってくれました。

ここがPOINT
- まずは業務の一極集中の解消や負担の軽減などを行い、自治会活動の見直しを行い、整える
- 自治会の改善は変化に時間を要することが多いので、年度を超えたり、複数の会長によって引き継いで実施することを前提とした方がよい
- 様々な提案をみんなで検討し「やってみる」が大事
- 役員で様々なことを共有し、みんなが意見を言い、みんなで考えることができる環境づくりが重要
- 役員の選出も人間関係に基づくので、相手に配慮をしながら、丁寧に行う

中原自治会に聞いた

しなやかに変化する自治会

夏祭りからハロウィンへ。役員が率先して楽しむことが大切。いい笑顔です。（左から二番目が芦川会長）

入ってみると楽しかった

自治会長になり5年目の芦川広子会長ですが、きっかけは、たまたま声をかけられて入った婦人部でした。通常2年交代のところ、自主防災活動が足りていないことに不安を覚え、婦人部に残ることにしました。女性の視点を生かした防災活動を推進するために、意思決定ができる部長になる方が早いと判断して部長になり、婦人部から女性部へ名称変更を行うなど、少しずつ変化を生んでいきます。その後、連合の女性部や部長を経て、中原自治会の会長に就任しました。

女性の参加が多いのも特徴です。

契機は、連合自治会長を兼務していた山村前自治会長が自治会長の任期終了時に芦川さんに声をかけたことでした。色々な面で応援し、相談にのってくれていた山村前会長の存在は、とても心強かったそうです。女性の副会長を1名入れることをお願いし、自治会長になりました。今では、連合自治会の副会長を担うほど、活躍しています。外から見ていた時は、自治会活動はとても大変そうに思えたようですが、自分が役員として運営してみると、思った以上に楽しいことが多いと言います。

1年待って、改革は2年目から

単位自治会といっても、中原自治会は1,200世帯以上ある市内でも大きな自治会です。芦川会長に役を担うコツをたずねたところ、新しい役を拝命したら、とりあえず1年は今までと同じようにそのままやってみて、変えてみるのは2年目からにしているそうです。その変化には目覚ましいものがあります。夏祭りは、キッチンカーを呼ぶことで、出店に関する住民の負担を軽減しました。しかし夏の暑い時期の開催は、役員はもちろん、参加者への負担が大きいことが分かり、その翌年は、夏を避けて10月に開催する、ハロウィン祭りへと変更しました。

【中原自治会の見直し】
- 会議を対面のスクール形式から、発言しやすい椅子だけの車座に変更
- 公民館の業務用カラオケをオンラインカラオケに変更することで経費の節約
- 公民館にWi-fiの設置
- 役員会議はオンラインのZoomを活用
- LINE公式アカウントによる情報発信　　など

積極的に様々なことを見直す一方で、防災については手堅く、安否確認を第一に、確実に実施できるように、訓練の徹底をしています。

若い住民の参画へ

中原自治会には組長だけでも100人います。しかし、組長の仕事は集金と回覧だけで、実際動いているのは、組長をまとめる7人の班長と理事と三役だけでした。そこで芦川会長は、地域活動に関わるきっかけにもなる組長に少しでも活動に参加してもらえるような仕組みを作ります。厚生部、支援事業部、子ども会、防災部を作り、できそうなことに手を挙げて関わってもらうことをはじめました。みなさん仕事があるので、まずは仕事を優先してもらい、できる人が、できるときに、できることを無理のない範囲でやってもらえるような配慮をしています。その影響か、活動が楽しいと言ってくれる方が長く残って、役員になっていくケースが増えているようです。そして、中原自治会では、2、3年前から若い世代が自治会に入ってくれるようにもなったそうです。

新しい隣近所の関係へ

芦川会長の自宅には、地域の人がよく集まります。子ども会のスタッフや役員と一緒に、庭先でバーベキューなどの集まりをすることもあるそうです。芦川会長は、今の時代にこそ、自治会のような組織は必要だ、と言います。今までやってきたことを守り続けることを目標とする組織ではなく、その時代に住民が必要とする地域づくりに応えられる組織として、運営方法や内容をアップデートすることが必須だと考えています。そして、住民のニーズに応えるためにも、隣近所の顔の見える関係性を育むことが、何よりも大切なのだと、嬉しそうに教えてくれました。

ここがPOINT
- 多くの人が関わりやすい自治会活動へ変えていく
- 無理をしない
- やること、組織があることを目的とするのではなく、目的達成のための組織として何をするのかが重要
- いきなり改善をするのではなく、1年は様子を見て現状を把握してから変えていく

静岡市職員が行く！

気になるあの自治会を訪ねてみました！

マークス・ザ・タワー東静岡自治会
（駿河区西豊田学区自治会連合会）
世帯数：157世帯

単位自治会として活動する分譲マンション「マークス・ザ・タワー東静岡」へ伺いました！

Q：なぜマンションで自治会を立ち上げたのですか？

きっかけは「高層マンションの防災対策」

平成22年の竣工時、「マークス・ザ・タワー東静岡」は、周辺地域の自治会に加入していました。当時は、マンションでひとつの自治会として活動しようとは思いませんでした。平成23年に東日本大震災を目の当たりにして、高層マンション特有の防災対策が必要だと考えるようになりました。4人の有志でメンバーを募り、マンションの管理組合の下部組織として「震災対策委員会」を立ち上げました。防災訓練、防災備品の購入などを行うのですが、しばらくすると、マンション内には共助に必要なコミュニティがないに等しく、時間が経過しても形成されないことが分かりました。

そこで、委員会を立ち上げ、コミュニティ形成について検討した結果、組織があった方がいいと考えました。さらに、自治会を作れば、市から防災情報が入り、なおかつ防災資機材の購入に補助を受けることが可能だと分かり、「マンションで単位自治会を立ち上げよう」という結論に至りました。

Q：どのように住民の方たちの理解を得たのですか？

みんなの意見を聞きながら進めることが大切

自治会は住民の意思に基づいて運営される組織なので、自分の考えだけで進めたらダメだと意識して活動しています。住民の意見を聞くために、自治会の立ち上げの段階から、全住民を対象に3回アンケートを実施しました。もちろん、その結果は紙面にまとめ、住民にお知らせしています。また、自治会の活動を知ってもらうことも重要なので、転入者には自治会のしおりや、自治会で作成した防災や防火のしおりを配っています。幅広い意見が出るように、自治会の役員も男女半々になるようにしています。

Q：自治会活動で力を入れていることは何ですか？

「楽しいことをやる」をモットーに

自治会内の顔の見えるコミュニティづくりのために、住民が楽しめるイベントの開催は重要だと考えています。参加する人が楽しいと感じるイベントにするために、対象となる人たちに意見を聞くように心がけています。最近まで、小学生の住民が2年間役員をやってくれて、子ども向けのイベントを企画する際には色々と意見を言ってくれました。役員は年代が上の人が多いので、子どもたちの代表としての意見にはとても助けられました。

夏は屋上でプール遊びやスイカ割り

Q：これからの取組について教えてください。

活動の参加者の固定化が課題

防災訓練やイベントなどの活動の参加者が固定化していることが課題だと感じています。今は、子どもや高齢者向けのイベントが多いので、企画の角度やターゲットを変えれば、自治会活動に無関心な人たちも関心を示してくれるかもしれないと考えています。防災面では、管理組合の役員の方に、月1回の防災部会に参加してもらっています。管理組合の役員は輪番制のため、全世帯が順番に担当します。部会に参加することで、これまでに自治会活動に参加したことがない人たちが活動に関わるきっかけになればと思っています。

インタビューを終えて…

はじめは、マークス・ザ・タワー東静岡自治会の立ち上げからコミュニティを形成していくことに、すごく苦労されたのではないかと思っていました。しかし、岡井会長のお話を聞いていると、マンション内の人と人とのつながりを大切にしながら、ご自身も住民の方たちも楽しんで活動をしているということが強く印象に残りました。
岡井会長の「楽しいことをする」という言葉は、額面通りの意味だけではなく、楽しむことで地域活動に参加するハードルを下げて、コミュニティ内の共助の力を高めることにつながっているのだと感じました。

連合自治会の事例紹介

若い人の手段を使ってアプローチ

清水区袖師地区連合自治会

袖師地区連合自治会は市内でもめずらしく、インスタグラムによる情報発信を行っています。
地区社協の酒井知子副会長が、若い世代への情報発信について悩んでいたところ、役員の娘の川口恵美さんが、若い人が良く使うインスタグラムを提案してくれました。企画書や運用指針、計画書などを作成し、役員の了承を得て、スタートしました。
現在は、3つの自治会から集まった4名のスタッフが運営しています。
SNSは作ってからが、本番です。登録者を増やすためにチラシを作成し、回覧したり、小学校や地区内に4つあるこども園・保育園に配付したりするなど宣伝をしました。結果、1年で170名程が、登録をしてくれました。
インスタグラムは画像や写真で情報を伝えるので、投稿にはコツが必要です。スタッフの中にはインスタグラムに詳しくない人もいたので、恵美さんが、使い方やコツを伝授。最近では画像作成アプリまで使えるスタッフが登場する程、上達したそうです。
登録者がなかなか増えないことが悩みのようですが、スタッフでどのような投稿は評判がよく、逆にあまり好まれない投稿は何なのか、研究しながら継続しているそうです。

地区の行事や子育て情報を発信しています。右記QRコードよりご覧いただけます。

自治会・町内会の課題に取り組む！

静岡市人材養成塾 地域デザインカレッジ2024 自治会・町内会編

今年は9地区11名の受講生が参加し、地域課題の解決に取り組んでいます。12月には各自の取組を報告する公開報告会が開催されます。公開報告会は、どなたでも参加ができます。他の自治会の会長が、どのような悩みを抱え、活動しているのかを知る、いい機会です。ぜひ、お誘いあわせのうえ、会場へお運び下さい。

「地域デザインカレッジ」公開報告会

日時：令和6年12月7日(土)13:30～17:00
場所：アイセル21　1階ホールにて
申込方法：今年度もオンラインによる視聴が可能です。右記のQRコードか以下のリンクからお申込みいただけます。
https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2836/s002468.html

令和6年度の取組テーマ

秋山町自治会
消火隊の在り方や自主防災組織の見直し

殿沢二丁目自治会
急傾斜地対策の継続

広野町内会
これからの時代に求められる自治会のメリット

宮竹学区子育てサロン代表
子育て世代が住み続けたいと思える町へ

馬渕三丁目二区自治会
会長への業務の一極集中と役員選出方法の改善

内宮町町内会
地域防災の見直し

青葉地区自治会連合会
学区の福祉環境の充実

東千代田自治会
自治会運営の見直し

桜町自治会
地域住民への情報発信手段の検討

「しずおか自治会マガジン」では、静岡市内の自治会・町内会活動の、好事例や楽しい取組、頑張っている方のお話など、さまざまな情報の提供をお待ちしております。

【発行日】令和6年11月
【発行元】静岡市 市民局 市民自治推進課
〒420－8602 静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-221-1265
【企画・編集・デザイン】里山くらしLABO

【令和6年度号 付録】
静岡市自治会・町内会活動見直しガイドBOOK
皆さまの自治会・町内会活動にお役立てください。

「しずおか自治会マガジン」は、右記のQRコードからご覧いただけます。ダウンロードも可能です。ご活用ください。